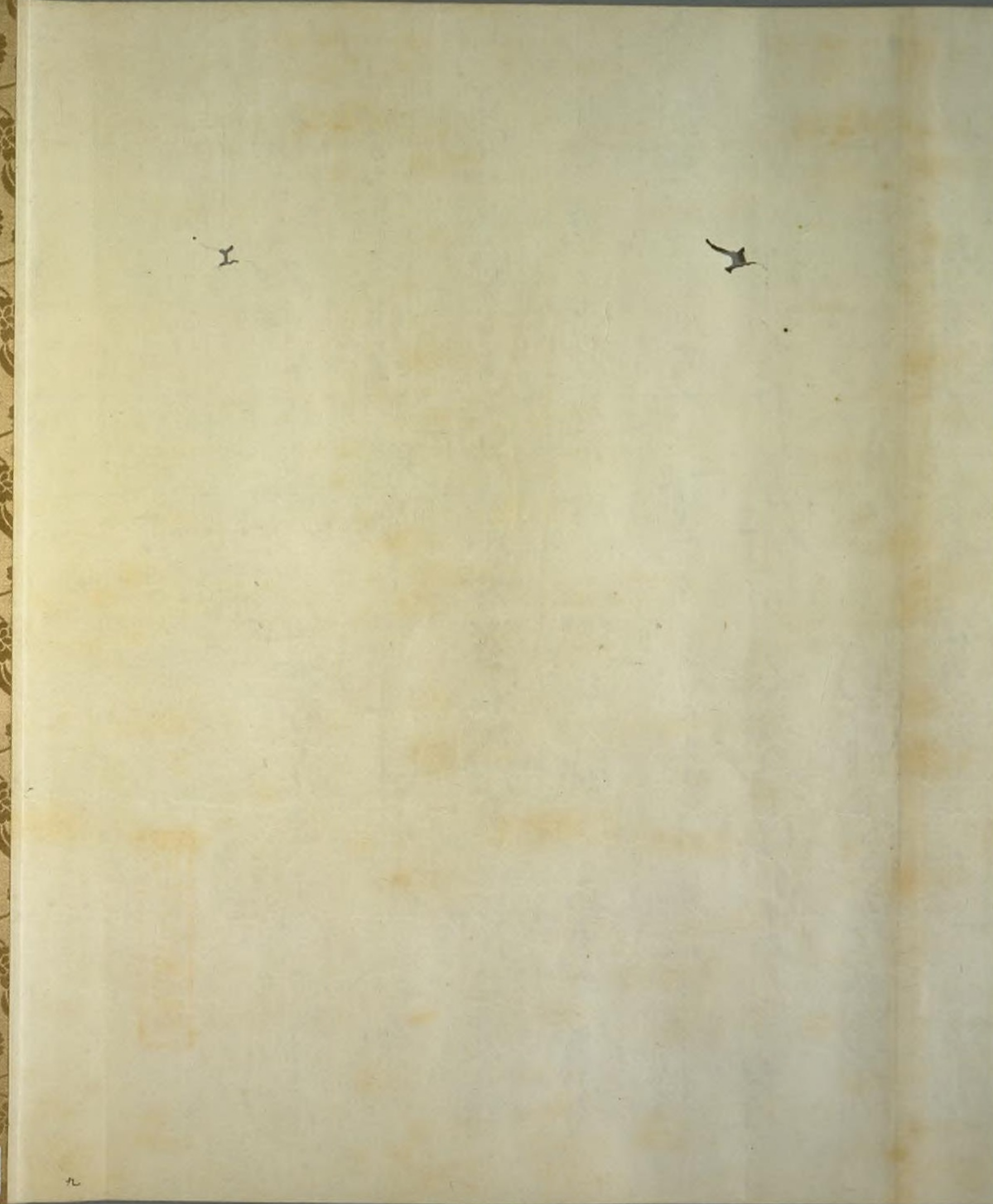




WA 31
13
(9)





WA 31
13
(9)

曾根 6



受し候も随喜し給り候と云紙関てわきの八歳少者
 弟一乃齋とす亦乃申小出家受戒れ子あり候と齋納
 其方業し説法と聽聞しと系道禪のいふ人の子候と
 此の^エみやこ小海つづ紀女あり候と云ひん^ハ云候なり





むいみやこふ悔つて死女ありきとひんてふはあり
 けふ業して説法と聴聞しとふ道徳のいふ人の子孫て
 弟一乃實とすお乃申小出家受戒れ子ありて之實納
 受し後にも随喜し給りてとて誦聞てわ子の八歳少者
 誦出家とせせとやこふひなり小出家とて無福寺に修
 禁昌の可してあむかしたけくは後守修小とて是八
 歳乃童とてとてうい乃とてに南都へくまて無福寺乃
 引北河内乃つんふせりにあり女や乃あり小こ乃南寺
 小寺とて名なきとて學を小ておとせるとて只喜多院に
 引小空積僧都に申人とて一宗の法燈小て南寺
 二歳ありてありてとてあつて門徒もたはく世傳もたは
 くとあき人少てたはれとてとてはれたり乃ありとて此
 童然乃の室小れなり系以とて後取人少とて此
 乃小僧都も法燈とてとてとてとてとてとてとてとて
 乃心くやとて且やとてあ乃河内地なりにはとてとて
 不とてとて

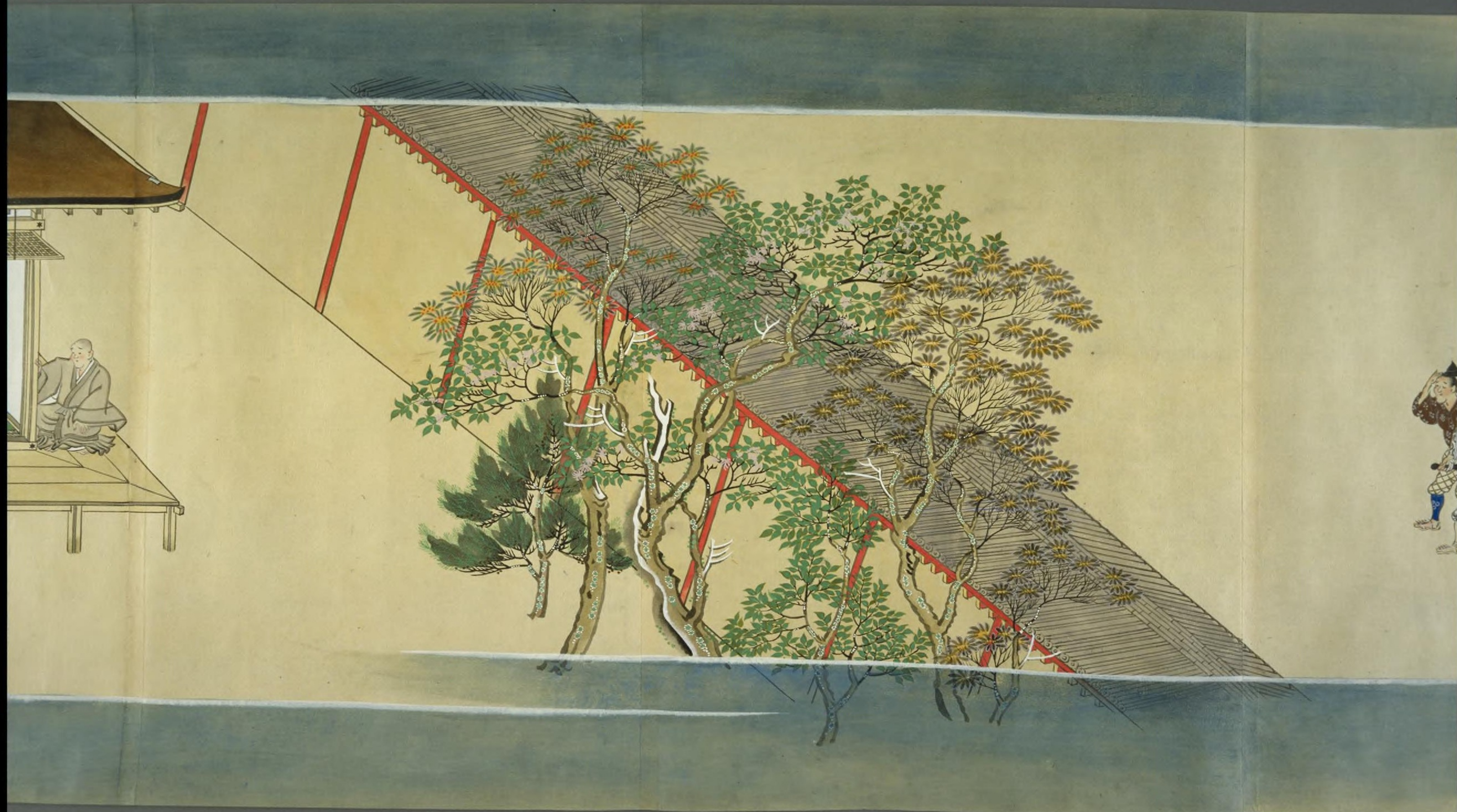




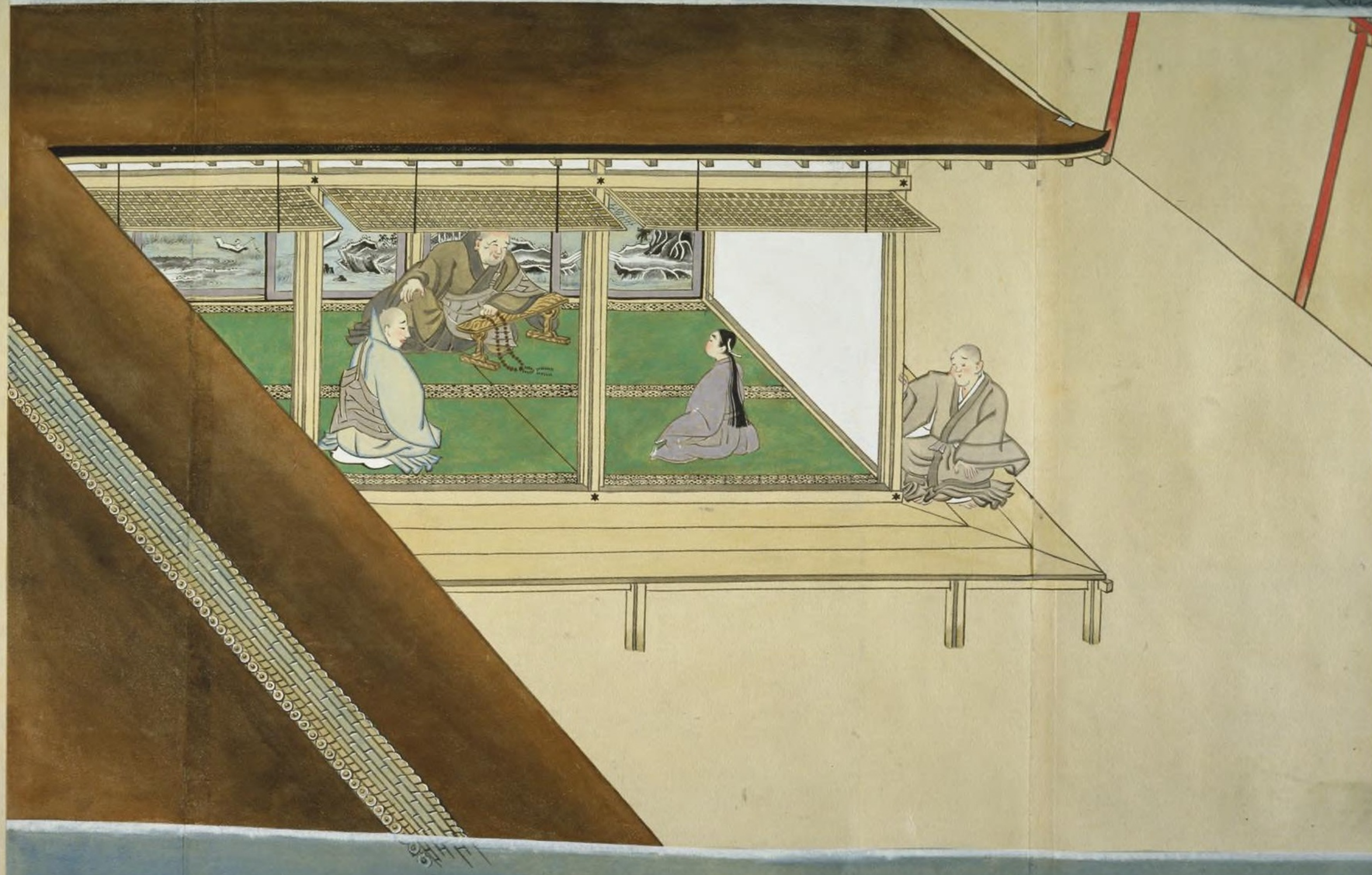
春日権現験記

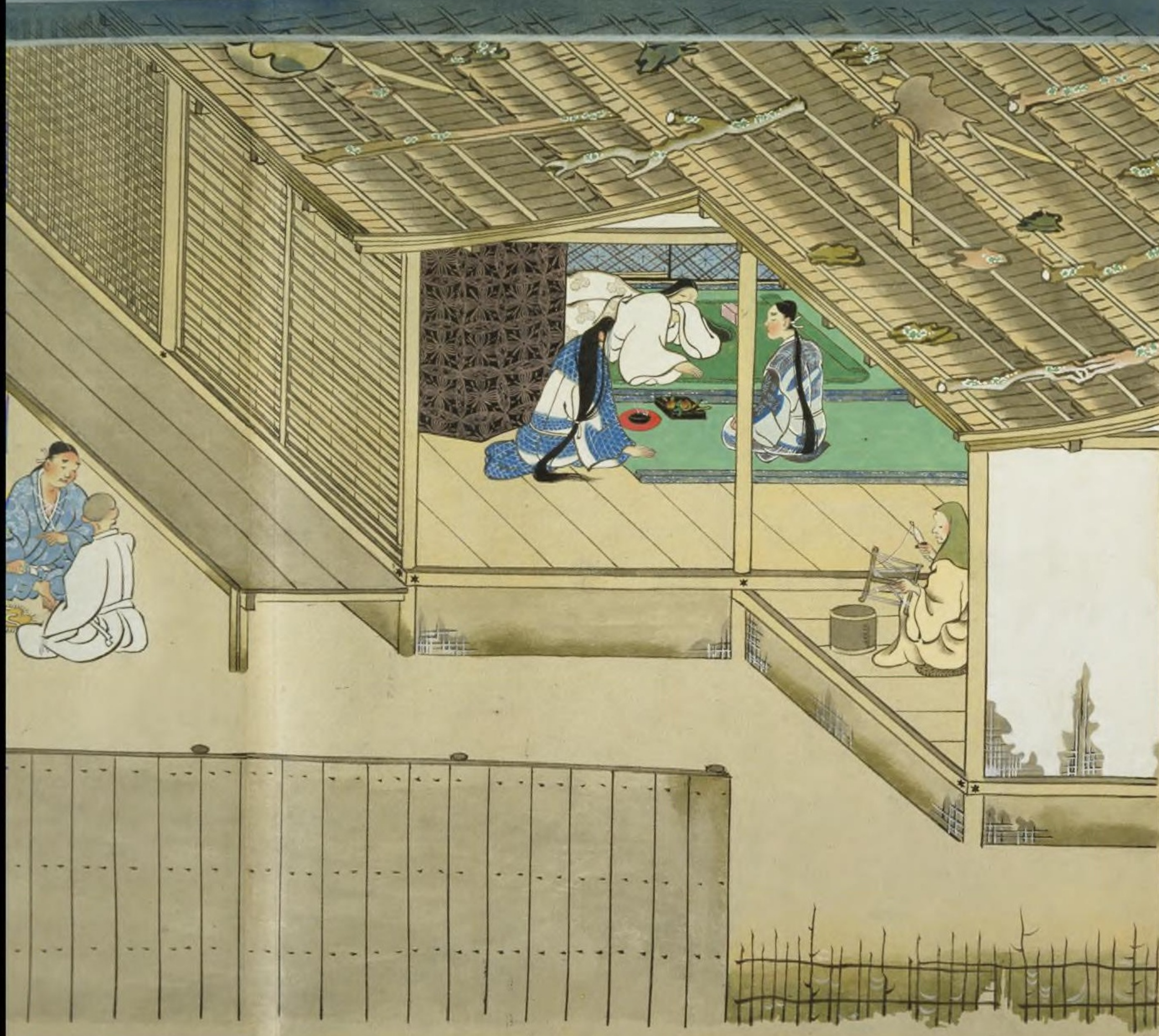






小乃童十歳小なる時を大福とて言えわやう言え
 見れりよとよき色をいふや我す見おれし極細をを
 けり此等此等とて言えよ言えよ言えよ言えよ言えよ
 此れ名紙とて言えよ言えよ言えよ言えよ言えよ言えよ
 わの命此す不能言とす此等乃毎月うつら流流乃言
 まるきとて言えよ言えよ言えよ言えよ言えよ言えよ





けりて此の御供養の事もいふ事あるは不汝の御供養
 れう名紙とせしせんこゝろりちこれにむしひまご遠きうらに
 わの命をいふ能はんとすこれに産乃毎日りうらに産御乃
 まのまをせむなりぬいねるくはとれりとらんちち師範なり
 ち我の乃ふお家のまのこみせよんやす見紙きせ
 かりりかんこもものまのまのこみせられた小児母のいふま
 僧都乃のふゆさてうとこれありあるはんとすふらり
 お家もせむりうのちたやえぬ乃御門乃母れとひまにれは
 ち見ては病ちふこたわらるるあしわの乃母ふたふとあし
 こいひていまこたふ米



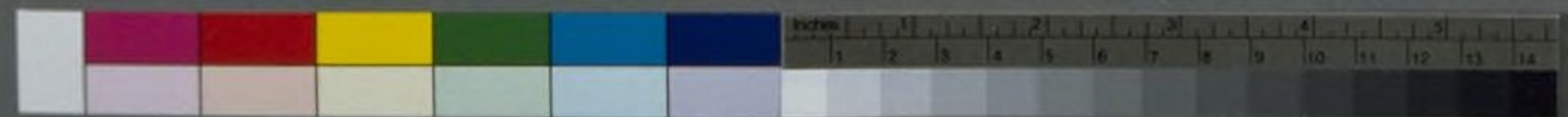


春日権現験記





此女やの先何れ様人か
しはるあふりか
後乃也



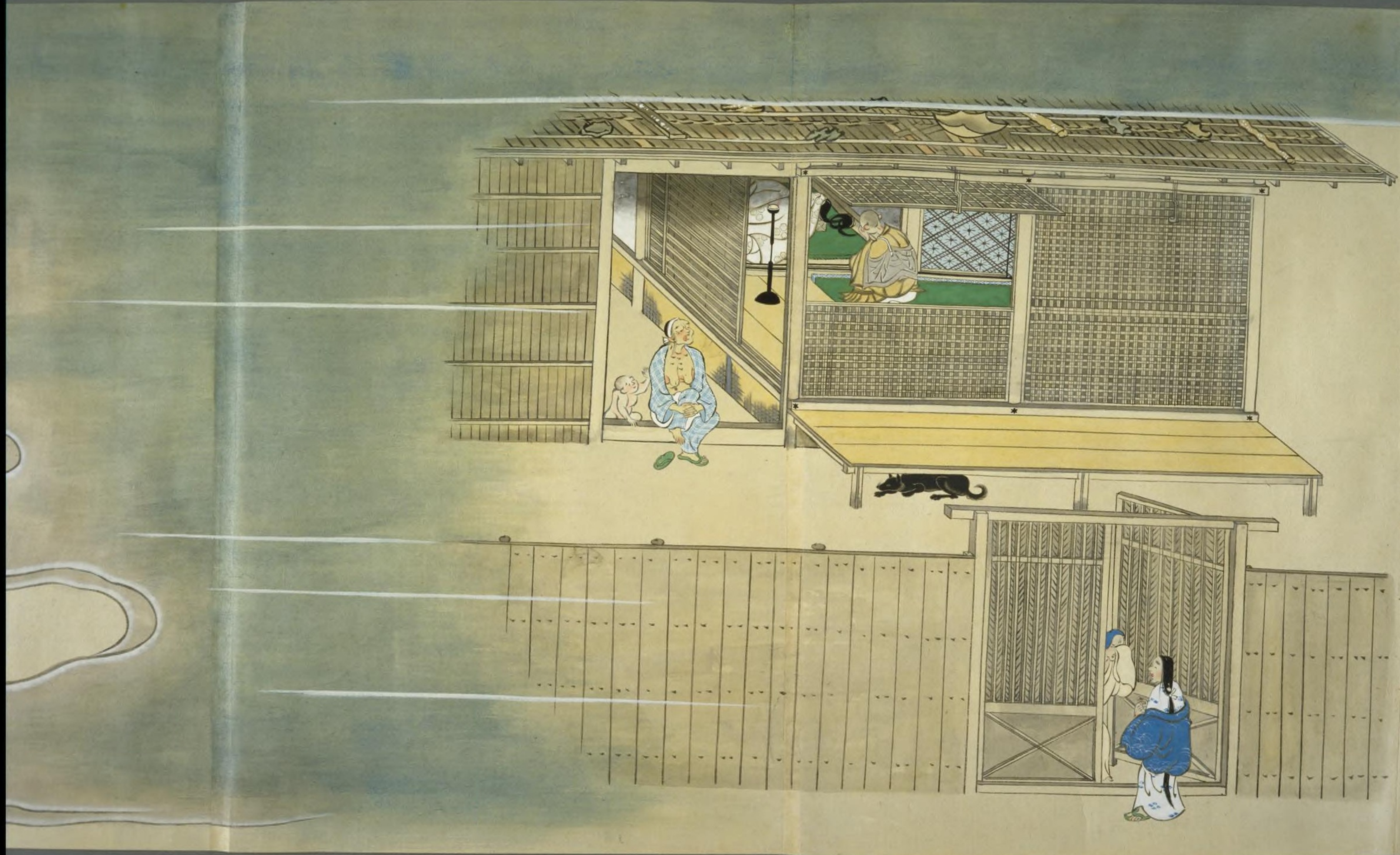
此女やも先ほど縁人かきあふわつて後乃か
 けりいこもさ人かしか小僧いふさるさるひま
 けさむかき死縁よむいしてわん乃淑小むせひあき
 流井くもふ三つ成へて母獲生してこ乃小僧ふさか
 けり死して痛摩れ應違ふいさまつく罪人死流
 獄卒じれ井て柳長いさうわたり一怒歎かむさる
 小む乃さう記書乃ひんつ返いさ一人さり
 こまゆり葉日ゆり行て玉の刺さるゆけて
 わくこせえまつるゆさ也たれげんとに得つ
 公飛えそえ海つて程た書字みつて我さる日乃あ
 明神也いさ一不申ゆさるゆりてこの前小乃りあ
 目こ乃わりの書信を巻行あさしゆ我ふむけ
 小乃切書さふあはゆさるゆさるゆさるゆせら
 れ玉のこありて冥帝小に得せて勅録に接とを
 不其れか乃如人子興福寺喜多院住侶十歳若
 沙弥とよえあき突ここね成きこて乃乃うて書さ
 細と中ふわたさするや日教先其ゆりせゆさる
 世にわいてとみゆりしるなり女はそ小神童に
 不其れいさ集て流善すそて手成さるりり記し流
 ゆさるさるさかしこね成國人の死あさるゆい





世に於てはとみ多かりしるなり 女は是れ水神に
 不祥いふ衆也く遊喜すて手紙よりなり此れ
 物と世多しとかしこは或國人の免あるは此い
 布、東よりをかり小僧いふ鑽作の功紙は千人
 碩学乃不備れありなり且月紙へののち又一
 生りきりありて川ありあり乃ちみ紙とて一
 此書亦たと流きて改換の書行を信たえんこ
 なりり、本寺乃ちまじり紙のれ不居の是免紙
 てわさしは法華持紙讀誦して此紙の芥とさ
 分れは時乃人ら此紙新親持紙とありきり
 高野山小僧とて此書乃意懐とるるをな





高野山小僧之
 法堂乃
 意懐
 乃
 乃
 乃







